

◆通所介護ナイス・デイ◆訪問介護ナイス・ケア◆小規模多機能型居宅介護ナイス・ホーム◆住宅型有料老人ホーム愛宕の家◆有料職業紹介つしま紹介所◆学童・託児ナイス・キッズ◆喫茶てのひら



vol. 153通信
H25年5月5日発行

発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

利用状況案内板 (☆募集中 ★満員)

☆ナイス・ケア(定員なし)
☆ナイス・デイ (定員10名/日)

日	月	火	水	木	金	土
4	6	9	5	6	9	5

☆ナイス・ホーム(登録者17名/定員21名)
☆愛宕の家(入居者14名/定員17名)
☆つしま紹介所 ☆ナイス・キッズ ☆打太鼓
～上記を参考にご利用ください～

《5月予定》

3日 藤祭り見物
5日 しょうぶ湯
10日 外食DAY
20日 避難訓練
24日 誕生日会
下旬: アジサイ寺、菖蒲園
※不定期行事
その日の天気や意欲等の状況で判断し外出先一覧を参考に社会生活参加しています。

自分で出来るという自信のために

こんにちは。4月へ入ると暖かい日が多くなりました。梅・桜・藤・柴桜…と、お花見に参加しています。外出して戻って来ると、とても良い顔をされています。外へ出掛ける事で気分転換が出来るんでしょうね。もちろん、体調が良くなければ、「動こう」という気持ちにもならないと思います。Tさんは、今まで色々な面で介助が必要でした。思う様にならないと、大きな声を出し、スタッフも頭を悩ませていました。しかし、最近は自ら車いすで移動され、トイレで排泄が出来る様になりました。もちろんいつでも介助が可能なように見守り援助は欠かせませんが、いつでも自分でできるという自信からか、大きな声を出される事も少なくなっています。マイペースに過ごし、外出等への行事にも参加もされています。私たち介助者は、手を出さず事が仕事ではないとつくづく思い知らされました。(愛宕の家/T・Y)



後に残る家族の気持ち

先日、小規模の登録者さんが亡くなりました。退院前、医師から「高齢なので、自宅介護は難しいのでは？」と心配されていましたが、家族は「出来るだけ自宅で看たい。一人では無理だが、介護サービスを利用しながらだから大丈夫。」と小規模多機能への再登録を希望され「ちゃんと助けてくれるよね。だから自宅介護も大丈夫。」と自信をもって答えてくれました。退院し自宅での生活が始まると、かかりつけ医の訪問診療時には、「終末期だからいつ何が来るかわからないから・・・。」と。私達も覚悟はしていたものの、改めて診断を聞かされると、一瞬戸惑いが・・・。今までも何名かの最期に携わってきましたが、個々人それぞれの最期の迎え方は異なります。その度に「終末期介護について」を話し合う機会を作ります。今回も、『本人も家族も後悔を残さないような援助ができれば・・・。私たちスタッフも後悔したくない・・・。』

退院から1ヶ月。かかりつけ医の協力を得て、自宅で、いつもの日常を過ごす家族の中で、本当に安らかに旅立たれました。数日後、ご家族が「家に連れて帰って本当に良かった。」と話してくれました。制度上でも、在宅での看取りを謳われていますが、医師との連携・家庭環境・介護状況・費用の捻出など、問題は山積み。しかし、自宅で最期を迎えたいとあれば、それに応えられるよう精一杯関わらせて頂きたいと改めて思います。(ナイス・ホーム/Y・O)

自分らしくのお手伝い

利用者さんのお宅に訪問すると、みなさんそれぞれに、こだわりの生活があり、誰一人として同じは無いのだと感じます。布団の敷き方ひとつを見ても、理にかなっていて、なるほどと思ひ、80歳を過ぎても自分暮らしを大切にされていることが伝わってきます。

「規則正しい生活を」「人に優しく、自分も大切に」など格言が居室に掲げてあり、デイサービスのことを『スタッフの元気をもらいに行く』と前向きに捉えた考え方の方には、私が元気をもらっています。

時々、これまで出来ていたことが難しくなり、『昔はこんなではなかった』と哀しむ声を聞きます。そんな時には、持てる力を引き出す手伝いをし、こだわりのある暮らしを維持してほしいと思います。

微力ですが、そんな思いを胸に、今日も明日も〇〇さん宅や△△さん宅を訪問します。(ナイス・ケア/K・N)

落ち着いて過ごす事・楽しむ事

4月のある日、フロアの中央に設置してあったテレビを無くした。今まで、漠然とテレビを見てデイの一日を過ごしていたMさんにとっては突然の大きな変化。もちろん、もう一つテレビがあるので、座る位置を変えれば、テレビを見る事が出来るのだが、今まで彼の定位置としていた場所からはテレビが見られなくなった。

席が変わることは自由だが、やはり今までの定位置からなかなか抜け出せず、手持無沙汰で座っている事が多くなった。そのせいか落ち着かれず、テラスに行って座ったり、何度もトイレに立ったり・・・。スタッフも、Mさんに出来る事をいろいろお願いするのだが、どうしても時間を持て余してしまう。

最近になって、少しは慣れてきたのか、定位置を抜け出して、テレビを見ている姿も見受けられるようになった。彼がテレビに頼らずとも、楽しめるようなデイになれば・・・と思う。(ナイス・デイ/H・A)



日々感じる事・・・

4月号からの続き～最終回『胃ろうの発明はペニシリンの発見に似ている。抗生物質のない時代には、助かるはずの病気で多くの人が亡くなった。それが、今までは全国津々浦々、どこまでも使うことができる。一部の大学病院だけでなく、町医者でも使うことができる。もちろん、副作用や使い過ぎて耐性菌の問題はあるけれど、だからと言って、抗生剤のない時代に誰も戻りたいとは思わないだろう。胃ろうが似ているのは、先進医療の認可を受けた大病院だけでなく、私のような開業医でもちゃんと使うことができるからである。多くの人々が、その恩恵を受けようと思えば受けられる胃ろうのすごさを認めながら、その正しい使い方を抗生剤の過去を参考にして、前向きに議論していきたいものである。』

昨年の11月からある記事を連載で紹介してきました。今回で終了ですが、私はつくづく人の命に関わることの難しさ、楽しさを教えられました。

(看護師/M・T)



サイコー！！

桧の板に、「打太鼓(だだっこ)」と手彫。とっても立派な立て看板が出来上がりました。『出来上がったよ』の電話の声に、子供達を連れて受取りに行き、「看板負けしないように頑張ります！」と気持ちいっぱいやる気を伝えました。

看板負けしないための練習を兼ねて、日頃から声援をくれる利用者さんやスタッフに、「看板お披露目」もできました。天王川藤まつり開催中の5/3(金・祝)には藤棚の下で演奏しましたよ♪♪新しくなったホームページ内、打太鼓ブログもみてね！

(打太鼓/R・W)

小学1～3年生KIDが4コマ漫画を描き、その中で選りすぐりの一枚を大人が選び、掲載します。次月もお楽しみに♪♪



編集後記

先日、見学に見えた方が、「国は家で看ると簡単に言うけれど、どれだけ頑張っても、頑張りたいという思いがあっても、それぞれの家族の状況次第で限界がある。」とやりきれない想いを話してくれました。

確かにその通りなんですよ。急に介護が必要となる環境におかれた時、治療を受けても治る見込みが感じられない時、協力してくれる家族に限界を見てしまった時等、頑張りたいからこそやりきれない思いが出てしまうのだと感じました。(Y・O)

* 介助をスムーズに行うためのワンポイントアドバイス *
～地に足をつける大切さ～

最近、車いすを低床タイプに交換したり、低床椅子を導入し、個人の背丈にあった座り方が出来るように環境を見直しています。見直し後は足が床にしっかりついていました。

座面が高いと、立ち上がり介助は楽です。介護度が高い方ほど介助者の負担は減ります。でも、足がぶらぶらしているのは、手を離れて飛んでいく風船と同じ。今までご飯を食べる時も、ゆっくり休んでいる時も足が宙に浮いてぶらぶらしていました。常に足が浮いていると、気持ちもふわ～と飛んでいってしまいます。足が浮いていると認知症の進行が早くなるという話もありますよ。(理学療法士/U・I)